

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371601234		
法人名	医療法人悠山会		
事業所名	グループホームファミリア元八事 Aユニット		
所在地	愛知県名古屋市中区元八事三丁目292番地		
自己評価作成日	令和3年10月8日	評価結果市町村受理日	令和4年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 o.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigyosy

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	令和3年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人ということもあり、医療に特化しており、主治医とは24時間態勢で相談することが可能です。当施設の理念である「地域との関わりを大切に、ここが住み慣れた場所となり、今までと変わらない心安らぎ心穏暮らしを続ける」の通り、明るく気さくな職員が多いです。レクリエーションも利用者様が飽きる事ないように日々職員同士で考えています。職員が働きやすい環境作りも当施設のアピールポイントです。お互いに遠慮することなく意見を言い合える環境です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームファミリア元八事は植田川、公園、神社が近くにある閑静な住宅街の一角にある2ユニットの事業所である。理念である「今までと変わらない心安らぎ心穏暮らしを続ける」に沿って、職員はもう一つの家族として接し、入居者の思いや、これまでの暮らし方を尊重したケアに取り組んでいる。駄菓子屋を営んでいた方と駄菓子屋へ買い物に行く等個別で対応したり、室内で楽しめる行事を増やすなど、コロナ禍でも出来る事を職員間で検討している。また、母体が医療法人で、協力医の定期的な健康診断や、健康相談、看護師による日常の健康管理を行っている為、家族アンケートでも「健康面や医療面について心配なことはないですか」という項目で「全くない」が90%であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、方針は「昔と変わらず和みのある暮らし」をしていただけるよう提供している。理念も周知されるようミーティングを通して確認し実践につなげている。	玄関フロアに理念を掲示している。入居者にとってホームが住み慣れた場所となり、職員が家族のような存在になれるよう、これまでの生活歴を職員間で共有し、一人ひとりに合わせたケアを提供するように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は町内会の参加やボランティアの方との交流があったが、コロナ禍になり年々交流が薄まっている。周辺の散歩時に近所の方と挨拶はしている。	町内会に加入しており、地域行事は回覧板より情報入手している。コロナ禍前には地域行事への参加の他、ホームで地域交流演芸会を開催し、地域住民も招待していた。	入居者が地域の一員として暮らし続ける為に、コロナ禍で個々の交流が難しい状況でも事業所と地域の繋がりの継続を検討する事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアを通じ近隣の方々にご理解いただき外出や散歩で挨拶を交わす等触れ合う事で理解や支援方法を活かせるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催している。コロナ禍の為、支援センターの方や町内の方には参加をご遠慮いただいている。参加されたご家族には施設の状況報告や意見をいただいている。緊急事態宣言中は参加を自粛して頂き、書面での報告とさせていただいている。	今年度はコロナ禍の為、6回開催の内5回は書面による開催をし、事業所の現況について報告をしている。議事録は家族へ送付し、運営推進会議結果報告書は市の指導課へ送付している。	書面による開催時でも、事業所職員以外の多様なメンバーからの運営に関する意見を聴取出来る取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所などを尋ねた折には、相談助言をいただく機会をもつよう心掛けている。運営者が積極的に連絡をするなど往来する機会を作っている。	法改正時等、不明点があれば、介護保険課に電話で相談をしている。区の保護係とは書面や電話等で日頃より連携をとっている。また、名古屋市主催の管理者セミナーや研修を受講している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の安全確保の為、玄関の施錠はしている。また身体拘束マニュアルに基づき、年3回の勉強会を実施し、知識、理解を深めている。	ベッドからの転落防止のためにベッド柵で囲む案が出れば、代替案を検討し、身体拘束にならないケアに取り組んでいる。また、スピーチロックに繋がるような声掛けがあれば、管理者や職員同士で注意しあえる関係づくりを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングで知識や理解を深める機会を作っている。言動や、しぐさにも配慮しており、職員同士で注意し合いながら虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での勉強会や外部の勉強会に参加し学ぶ機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は施設長と担当者が総括的に行い、施設パンフレット及び、重要事項説明書に沿って内容を読み上げ、疑問点等にお答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様・ご家族からの意見は随時施設長に報告、記録しミーティングを行ったり、運営推進会議を活用し運営に反映させている。面会時や電話でも意見を聞く様にしている。	玄関入口に意見箱を設置している。また、面会時や電話報告時に意見要望を聴取している他、毎月請求書と一緒におたよりを送付しホームでの様子を家族に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度主任、副主任が主体となり、ミーティングを開く様にしている。ミーティングの内容は主任か副主任にまとめてもらい、報告してもらっている。必要があれば施設長も参加している。	朝と夕の2回プチミーティングの際に意見を聴いている。また、月1回の職員会議では利用者のケアの統一や、勉強会、ヒヤリハットの事例検討等がされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度より法人内で人事評価制度が導入された。自己評価・上長評価を行い点数に応じて給与を上げていく方式。これにより職員の向上心アップに繋がる事を期待している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ予防の為法人での研修は中止となっている。無資格者を優先に研修の案内がきたら声を掛けている。月に一度施設内で勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所内ではあるが、それぞれの施設にて交流はしている。外部の同業者との交流はほとんどない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護職員は出来る限り利用者様と会話をできる環境を作っている。表情・言動等から本音を汲み取り、不安を取り除くようにしている。又、ご要望に関してもなるべく答えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階から、不安な事や要望を聞く様にしている。入居後もこちらから積極的に話しかけ、要望などを聞く様にしている。日常的な会話も行い、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態を見極め、職員間で情報を共有しその方にあった支援を、随時実施している。必要であればご家族にも相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時間ができれば、周辺の散歩、工作レクや合唱等をしている。洗濯物を干したりたたんだり等の日常的な家事を手伝っていただき、一緒に暮らししている家族のような関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とコンタクトをはかり、会話をもって情報の共有をし、ともに考え解決したり、伝達できるよう支援し、本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前教職を勤めていた利用者様の生徒様や同僚の方から時々お電話があり、本人に繋いでいる。手紙も時々届き、本人に渡すようにしている。読むのが困難な方には職員が代読している。	入居時に家族、本人から馴染みの場所や人について聞き取り、把握している。友人、知人との電話の取次ぎや手紙の代読の支援を行っている。馴染みの美容院や、墓参り等は家族支援のもと継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を出来る限り把握し、孤立しないように座席を決めている。会話が困難な利用者様は職員が間に入り会話ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くられるか、入院で契約が終了となるケースがほとんど。他の施設へ移動となった場合は移動先の施設のスタッフからの相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常的な会話からご本人の希望や意向を汲み取るようにしている。意思疎通が困難な利用者様に対しては本人本位に考え、丁寧な声掛けや介護に努めている。	日頃の会話から暮らし方の希望を聞き取り、個別記録により職員間で共有している。意思の表出が難しい方の意向については家族からの聞き取りは表情等から本人本位を探るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自分らしく馴染みのある生活環境作りができるように、使い慣れた家具や衣類等を持ってきていただくようにしている。家具の配置も出来るだけ入居前と同じようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日朝・夕の申し送りや介護日誌、連絡ノートを活用し、利用者様の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回ケアカンファレンスを開催し現状に即した介護計画書を作成している。本人やご家族のニーズをもとに短期目標、長期目標をたて状況や要望に応じ随時見直している。	基本的には半年に1回モニタリング、計画の見直しを行っている。入居したばかりの方については1か月後に計画の見直しを行い、現状に即した計画を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や連絡ノート、毎日の申し送りで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族との会話をもとに重視すべき点を見極め、柔軟に取り組めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事にはボランティア、生き生き支援センターの方を含め、地域の相談は民生委員。防災訓練時や緊急時には消防局、エスケープ時には警察と機関の協力のもと暮らしを支えている地域資源を把握し、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に二度の訪問診療があり、病状に応じ24時間体制で対応している。他院へ受診の必要がある場合は主治医に紹介状を用意してもらっている。	月2回協力医による訪問診療がある。これまでのかかりつけ医へは家族支援のもと受診している。週1回の訪問看護が、日常の健康管理を行っている他24時間オンコールで緊急時にも連絡可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師が施設を訪問している。訪問時に必要な時は相談し、助言をいただき、適切な支援に反映している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療法人なので提携機関もあり、素早く対応できる。看護サマリー等で情報交換を行い入院後も病院と連絡をとり、退院に向けての対応に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際にはご本人、ご家族の意向を確認しながら極力意向に沿えるよう、主治医と連携して可能な範囲で看取りに対応している。介護職員は重度化した際の支援に関して話し合い、利用者様の意向に沿う支援に努めている。	入居時と重度化した際に状態の変化に伴い家族、本人から意向を確認している。職員、看護師、協力医、家族と共に方針を共有し終末期ケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、対応策ができています。又、勉強会を行い、知識の確認もしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓令を行い災害に備えている。非常食や飲料水の確保もしている。停電時の備えとしてヘッドライトやラジオ、予備の電池を用意している。お風呂の残り湯を翌日まで残し、災害に備えている。	年2回夜間と昼間想定で避難訓練を実施している。その内年1回は消防署立ち合いの基実施しており、避難訓練の内容を評価され、表彰されている。1週間分の食料と水の他、ヘッドライト、ラジオ、電池、毛布等の備えがある。	災害時に地域の協力が得られるよう地域との関係構築の為の取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活を把握し、利用者に添った声掛けをしている。人生の先輩であることを忘れずに尊敬の念を抱いて接している。入浴や排泄の対応では羞恥心に配慮している。	年間研修計画に接遇やプライバシーについての勉強会を位置付けて学ぶ機会を設けている。ミーティングの際はプライバシーに配慮し、部屋番号を使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を伝えやすい雰囲気作りに努めている。選択肢を出し、なるべく自己決定してもらえるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の気分や体調を考慮して、生活のリズムに合わせながら支援している。外出ややりたい事にはなるべく応えられるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度訪問型理美容室に散髪の依頼をしている。衣類に関しても職員が決めるのではなく声を掛けながら本人の好みの物を着てもらおう様になっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の調理場である程度調理された食材を事業所内で調理している。盛り付けは事業所で行うので、彩りに気を付け、目で楽しめるようにしている。2～3か月に1度特別食を行い、可能な方にはお手伝いをしていただいている。	法人のグループ会社が運営するセントラルキッチンで、調理済の食材が届く為、彩りや盛り付けに工夫して提供している。入居者の状態に合わせて、刻みやミキサー食にも対応している。月に1回おやつ作りのレクリエーションは入居者と職員で調理を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内に調理場があり、担当の栄養士が栄養バランスを考え献立を作っている。摂取量に関しては毎日記録している。日々の状態に応じて形状や味付けを変えたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内のケアを実施している。自身でできない方には職員が準備したり、ケアをしている。週に一度訪問歯科による口腔ケアの実施、指導をうけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のタイミングに合わせて排泄の声掛け、誘導をしている。日中は極力おむつは使用せず、トイレでの排泄、排泄の自立にむけた支援を行っている。	出来るだけトイレで排泄できるように、残存能力を生かし、立てる方はズボンの上げ下ろしや歩行器を使って歩行練習を行っている。便秘対策として、医師と相談し、整腸剤を服用したり、乳製品を摂取したりしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の摂取、体操等の運動で予防に努めている。医師に相談し、必要であれば薬を処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に沿って対応している。週に2~3回の入浴。体調や気分によっては当日は回避し、翌日にずらしている。入浴剤の使用や、スピーカーで好きな音楽を流す等、気持ちよく入浴ができるよう努めている。	週に2・3回午前中を基本としているが、希望により午後の入浴にも対応している。入浴の際には、浴槽に好みの入浴剤を入れたり、音楽をかける等楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調にあわせて休憩時間をもうけ配慮している。巡回時にはエアコンの温度調整を行い快適に眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイリングし職員がすぐに確認できるようにしている。疑問があれば薬剤師にも相談し、助言をいただいている。誤薬、服薬防止策を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	貼り絵やYouTubeで昔の映像を流す等レクリエーションに工夫している。工作レクで完成した時の喜びや達成感を共有し、楽しく刺激のある生活を送れるよう努めている。洗濯や調理も可能な方には手伝っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の思いに沿って支援をしている。外出先によっては車を使用したり、行楽、バス旅行等の季節行事にも取り組んでいる。ご家族の参加も受け付けている。今年度はコロナ予防の為旅行等は中止。外出は散歩程度にとどめている。	気候や体調に合わせて散歩をしている。コロナ禍以前は車2台で、セントレア空港まで外出したり、季節に合わせて花見や初詣に出掛けていた。最近ようやく近くの花屋や買い物等個別での外出を再開している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設では基本的に金銭の預かり管理はしておらず、施設では用意できない物品に関してはご家族にお持ちいただいている。中々施設へ来られないご家族の場合は施設立替にて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話の使用は可能。手紙のやりとり等は希望に応じ準備し支援できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には観葉植物や置物を配置。利用者様の写真を展示している。リビングには季節感を取り入れた工作物を作成、展示している。トイレには芳香剤、リビングには花などを展示している。共有空間は日当たりが良く、開放感のある空間となっている。	玄関フロアには入居者の写真や職員全員の名前入り写真の掲示がある。リビングは前面南向きで日当たりが良く、大きなテラスで日光浴をしたり、プランターで園芸を楽しんでいる。リビング室内は加湿付きの空気清浄器の設置やエアコンの風が直接当たらないようにカバーを着ける等の配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士で楽しくのんびり過ごせるように、テーブルや椅子の配置換えをしている。ゆったりくつろげるソファも用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や好みの飾り物などを置き、心地よい空間作りをしている。本人やご家族のご意見やご要望にもできる限りお応えしている。	ベッド、エアコン、収納スペースは備え付けで、その他の家具は個々に使い慣れたものを使用している。家族の写真や趣味の裁縫道具、沢山のアルバム等、それぞれが居心地の良い空間づくりをされているのが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの環境に配慮した設備(手すり、スロープなど)や居室出入りに表札を下げ安心・安全な生活が送れるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371601234		
法人名	医療法人悠山会		
事業所名	グループホームファミリア元八事 Bユニット		
所在地	愛知県名古屋市中区元八事三丁目292番地		
自己評価作成日	令和3年10月8日	評価結果市町村受理日	令和4年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人ということもあり、医療に特化しており、主治医とは24時間態勢で相談することが可能です。当施設の理念である「地域との関わりを大切に、ここが住み慣れた場所となり、今までと変わらない心安らぎ心と暮らしを続ける」の通り、明るく気さくな職員が多いです。レクリエーションも利用者様が飽きる事ないように日々職員同士で考えています。職員が働きやすい環境作りも当施設のアピールポイントです。お互いに遠慮することなく意見を言い合える環境です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 o.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigyosy

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	令和3年12月17日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、方針は「昔と変わらず和みのある暮らし」をしていただけるよう提供している。理念も周知されるようミーティングを通して確認し実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は町内会の参加やボランティアの方との交流があったが、コロナ禍になり年々交流が薄まっている。周辺の散歩時に近所の方と挨拶はしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアを通じ近隣の方々にご理解いただき外出や散歩で挨拶を交わす等触れ合う事で理解や支援方法を活かされるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催している。コロナ禍の為、支援センターの方や町内の方には参加をご遠慮いただいている。参加されたご家族には施設の状況報告や意見をいただいている。緊急事態宣言中は参加を自粛して頂き、書面での報告とさせていたいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所などを尋ねた折には、相談助言をいただく機会をもつよう心掛けている。運営者が積極的に連絡をするなど往来する機会を作っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の安全確保の為、玄関の施錠はしている。また身体拘束マニュアルに基づき、年3回の勉強会を実施し、知識、理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングで知識や理解を深める機会を作っている。言動や、しぐさにも配慮しており、職員同士で注意し合いながら虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での勉強会や外部の勉強会に参加し学ぶ機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は施設長と担当者が総括的に行い、施設パンフレット及び、重要事項説明書に沿って内容を読み上げ、疑問点等にお答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様・ご家族からの意見は随時施設長に報告、記録しミーティングを行ったり、運営推進会議を活用し運営に反映させている。面会時や電話でも意見を聞く様にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度主任、副主任が主体となり、ミーティングを開く様にしている。ミーティングの内容は主任か副主任にまとめてもらい、報告してもらっている。必要があれば施設長も参加している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度より法人内で人事評価制度が導入された。自己評価・上長評価を行い点数に応じて給与を上げていく方式。これにより職員の向上心アップに繋がる事を期待している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ予防の為法人での研修は中止となっている。無資格者を優先に研修の案内がきたら声を掛けている。月に一度施設内で勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所内ではあるが、それぞれの施設にて交流はしている。外部の同業者との交流はほとんどない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護職員は出来る限り利用者様と会話ができる環境を作っている。表情・言動等から本音を汲み取り、不安を取り除くようにしている。又、ご要望に関してもなるべく答えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階から、不安な事や要望を聞く様にしている。入居後もこちらから積極的に話しかけ、要望などを聞く様にしている。日常的な会話も行い、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態を見極め、職員間で情報を共有しその方にあった支援を、随時実施している。必要であればご家族にも相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時間ができれば、周辺の散歩、工作レクや合唱等をしている。洗濯物を干したりたたんだり等の日常的な家事を手伝っていただき、一緒に暮らしている家族のような関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とコンタクトをはかり、会話をもって情報の共有をし、ともに考え解決したり、伝達できるように支援し、本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前教職を勤めていた利用者様の生徒様や同僚の方から時々お電話があり、本人に繋いでいる。手紙も時々届き、本人に渡すようにしている。読むのが困難な方には職員が代読している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を出来る限り把握し、孤立しないように座席を決めている。会話が困難な利用者様は職員が間に入り会話ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられるか、入院で契約が終了となるケースがほとんど。他の施設へ移動となった場合は移動先の施設のスタッフからの相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常的な会話からご本人の希望や意向を汲み取るようにしている。意思疎通が困難な利用者様に対しては本人本位に考え、丁寧な声掛けや介護に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自分らしく馴染みのある生活環境作りができるように、使い慣れた家具や衣類等を持ってきていただくようにしている。家具の配置も出来るだけ入居前と同じようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日朝・夕の申し送りや介護日誌、連絡ノートを活用し、利用者様の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回ケアカンファレンスを開催し現状に即した介護計画書を作成している。本人やご家族のニーズをもとに短期目標、長期目標をたて状況や要望に応じ随時見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や連絡ノート、毎日の申し送りで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族との会話をもとに重視すべき点を見極め、柔軟に取り組めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事にはボランティア、生き生き支援センターの方を含め、地域の相談は民生委員。防災訓練時や緊急時には消防局、エスケープ時には警察にと機関の協力のもと暮らしを支えている地域資源を把握し、支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に二度の訪問診療があり、病状に応じ24時間体制で対応している。他院へ受診の必要がある場合は主治医に紹介状を用意してもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師が施設を訪問している。訪問時に必要な時は相談し、助言をいただき、適切な支援に反映している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療法人なので提携機関もあり、素早く対応できる。看護サマリー等で情報交換を行い入院後も病院と連絡をとり、退院に向けての対応に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際にはご本人、ご家族の意向を確認しながら極力意向に沿えるよう、主治医と連携して可能な範囲で看取りに対応している。介護職員は重度化した際の支援に関して話し合い、利用者様の意向に沿う支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、対応策ができている。又、勉強会を行い、知識の確認もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓令を行い災害に備えている。非常食や飲料水の確保もしている。停電時の備えとしてヘッドライトやラジオ、予備の電池を用意している。お風呂の残り湯を翌日まで残し、災害に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活を把握し、利用者に添った声掛けをしている。人生の先輩であることを忘れずに尊敬の念を抱いて接している。入浴や排泄の対応では羞恥心に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を伝えやすい雰囲気作りに努めている。選択肢を出し、なるべく自己決定してもらえるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の気分や体調を考慮して、生活のリズムに合わせながら支援している。外出ややりたい事にはなるべく応えられるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度訪問型理美容室に散髪の依頼をしている。衣類に関しても職員が決めるのではなく声を掛けながら本人の好みの物を着てもらう様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の調理場である程度調理された食材を事業所内で調理している。盛り付けは事業所で行うので、彩りに気を付け、目で楽しめるようにしている。2~3か月に1度特別食を行い、可能な方にはお手伝いをしていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内に調理場があり、担当の栄養士が栄養バランスを考え献立を作っている。摂取量に関しては毎日記録している。日々の状態に応じて形状や味付けを変えたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内のケアを実施している。自身でできない方には職員が準備したり、ケアをしている。週に一度訪問歯科による口腔ケアの実施、指導をうけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のタイミングに合わせて排泄の声掛け、誘導をしている。日中は極力おむつは使用せず、トイレでの排泄、排泄の自立にむけた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の摂取、体操等の運動で予防に努めている。医師に相談し、必要であれば薬を処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に沿って対応している。週に2~3回の入浴。体調や気分によっては当日は回避し、翌日にずらしている。入浴剤の使用や、スピーカーで好きな音楽を流す等、気持ちよく入浴ができるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調にあわせて休憩時間をもうけ配慮している。巡回時にはエアコンの温度調整を行い快適に眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイリングし職員がすぐに確認できるようにしている。疑問があれば薬剤師にも相談し、助言をいただいている。誤薬、服薬防止策を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	貼り絵やYouTubeで音の映像を流す等レクリエーションに工夫している。工作レクで完成した時の喜びや達成感を共有し、楽しく刺激のある生活を送れるよう努めている。洗濯や調理も可能な方には手伝っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の思いに沿って支援をしている。外出先によっては車を使用したり、行楽、バス旅行等の季節行事にも取り組んでいる。ご家族の参加も受け付けている。今年度はコロナ予防の為旅行等は中止。外出は散歩程度にとどめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設では基本的に金銭の預かり管理はしておらず、施設では用意できない物品に関してはご家族にお持ちいただいている。中々施設へ来られないご家族の場合は施設立替にて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	いつでも電話の使用は可能。手紙のやりとり等は希望に応じ準備し支援できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には観葉植物や置物を配置。利用者様の写真を展示している。リビングには季節感を取り入れた工作物を作成、展示している。トイレには芳香剤、リビングには花などを展示している。共有空間は日当たりが良く、開放感のある空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士で楽しくのんびり過ごせるように、テーブルや椅子の配置換えをしている。ゆったりくつろげるソファも用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や好みの飾り物などを置き、心地よい空間作りをしている。本人やご家族のご意見やご要望にもできる限りお応えしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの環境に配慮した設備(手すり、スロープなど)や居室出入りに表札を下げ安心・安全な生活が送れるように工夫している。		